報道関係各位

宝塚市立文化芸術センター

2023年5月16日
宝塚市立文化芸術センター

粘菌や木の子を使ったアート作品約1,400点が展示室に大集合！

美術家・髙田光治と粘菌たちとのコラボレーションによる「驚異の部屋（ヴンダーカンマー）」

「髙田光治（たかだ　みつじ）のミクロコスモス劇場展―粘菌と胞子がつむぐ物語―」開催

2023年7月29日（土）～9月3日（日）/ 宝塚市立文化芸術センター（宝塚市武庫川町7-64）

宝塚市立文化芸術センター（所在地：兵庫県宝塚市／館長：加藤義夫）は、粘菌を使用したアート作品約1,400点が勢ぞろいする展覧会「髙田光治のミクロコスモス劇場展―粘菌と胞子がつむぐ物語―」を、7月29日（土）から9月3日（日）の会期で開催します。

庭園をはじめとする土壌のエッセンスである地中の菌類の世界を紹介することで、当センターの特色である《アート》と《ガーデン》という異なるふたつの世界を繋ぎます。粘菌や胞子がつむぐミクロの世界を、アート作品として昇華し、表現されたかたちでご覧いただく展覧会です。

◆美術家・髙田光治が自ら採取した粘菌をアート作品で表現

ふだん、あまり私たちの目にふれることがない微細な粘菌たち（変形菌類）。美術家の髙田光治（たかだ みつじ）は、この粘菌を自ら採取し、観察し、テーマとしながら作品を発表しています。粘菌の活動の軌跡を定着させた作品は、アートとしてもサイエンスとしても興味深いものです。

今回、約1,400点にものぼる作品たちが展示された室内は、まるで現代の「驚異の部屋（ヴンダーカンマー）」※です。

※「驚異の部屋（ヴンダーカンマー）」とは、欧州の王侯貴族や学者たちが大航海時代に世界各地から蒐集したさまざまな不思議な物品、珍品コレクションを陳列した部屋の呼び名。

▲新作《大体を観る・知る》

160点の作品にオブジェ2点を加えたインスタレーションの大作。
粘菌の子実体・木の子や、粘菌の活動の軌跡を画面に定着させた作品が、展示室の壁面いっぱいに拡がる様子は壮観です。

《報道関係者お問い合わせ先》
宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂
MOBILE:090-6065-0063(馬場) 090-5667-3041(永井)
TEL:050-1807-2919　FAX:06-6231-4440　E-mail:takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センター公式WEBサイト
URL　https://takarazuka-arts-center.jp

◀アクセス
QRコード

展覧会のポイント

1.自然のうつくしさが、そのままアート作品に

さまざまな姿で活動する粘菌たち。髙田光治は、粘菌の活動を休止させてアクリルケースに密封し、粘菌に影響が出ない形でアート作品に表現しています。森の食物連鎖の中で腐敗を調整する役割を担いながら、ひっそり活発に活動する「**森の静かな守りびと**」の姿をお楽しみください。

2.作品は、すべて撮影可能

会場の作品は、すべて写真撮影が可能です。思わず写真を撮りたくなるうつくしい作品や、カラフルでユニークな姿の粘菌はSNSとも相性が良く、写真や動画も多数アップされています。

3.夏休みの自由研究にピッタリ！中学生以下は無料

展示はちょうど夏休み期間中。中学生以下なら何度でも無料で作品を鑑賞できます。不思議な存在の粘菌たちは、ワークショップも含めて自由研究の題材にもピッタリです。

4.展示室には作品をスケッチできるワークショップスペースも

展示室には、自由に展示作品をスケッチしたり、粘菌類の様子を模写したりできる「ワークショップスペース」を設けます。来場者が描いたスケッチ・模写は、壁面に貼り出し、展示に加えていきます。日々変化する会場風景は、まるで粘菌が増殖するように**「生きた空間」**となります。時には、髙田光治がフラッと現れ、粘菌の説明や、一緒にスケッチも行います。

粘菌とは？

粘菌とは単細胞生物の一種です。名前に菌がつきますが、菌類の仲間ではなく、アメーバ動物（Amoebozoa：アメーボゾア）というグループに所属しています。世界では約1,000種類、日本でも約600種類ほどが見つかっています。

・一生のうちに4つの形に変化する

ネバネバした「粘菌アメーバ」から、合体して「接合子」に、さらに融合した核が分裂して「変形体」に、そこから胞子を飛ばす「子実体」へと、環境によって4つの形態に変化するため、変形菌とも呼ばれ、環境の変化に合わせて生き抜く強い力を持っています。

・動物でも植物でもない不思議な存在

粘菌は動物でも菌類でもないアメーバ動物です。カラフルでうつくしい姿はサイエンスだけではなく、アートの分野でも注目されています。粘菌の観察に最適な時期は梅雨時から夏にかけて。木がたくさん生えている場所で、落ち葉や倒木の近くで見つけることができます。

・碩学の南方熊楠がハマった、粘菌の奥深さ

粘菌にほれ込んだ博物学者の南方熊楠（みなかた くまぐす）は、その生涯をかけ4,500種類に及ぶ世界一の菌種標本を残しました。また、生物学に造詣が深かった昭和天皇は、1935年に出版された日本初の粘菌の研究書にかかわっています。なお、髙田光治は2013年に南方熊楠記念館（和歌山）で個展を開催しました。

開催概要

タイトル：**髙田光治（たかだ みつじ）のミクロコスモス劇場展 ―粘菌と胞子がつむぐ物語―**
※「髙」は、ハシゴダカが正式名称です。旧字体の表記ができない場合「高」の表記でも問題ありません。
会期：2023年7月29日（土）～9月3日（日）
休館日：毎週水曜日
開館時間：10：00～18：00（入場は17:30まで）
会場：宝塚市立文化芸術センター 2階メインギャラリー
（〒665-0844　兵庫県宝塚市武庫川町7-64）
公式WEBサイト　https://takarazuka-arts-center.jp
観覧料：一般（高校生以上）1,000円、中学生以下無料
※障がい者手帳提示でご本人様、付添の方１名まで無料
問い合わせ：宝塚市立文化芸術センター　TEL:0797-62-6800
主催：宝塚市立文化芸術センター（指定管理者：宝塚みらい創造ファクトリー）
後援：神戸新聞社
一般問合せ先：宝塚市立文化芸術センター 電話:0797-62-6800

アクセスQRコード

関連イベント

○パートナーズサロン「髙田先生に聞いてみよう！」

髙田光治と参加者が、問答（Q&A）を通してコミュニケーションをはかります。本展の出品作品や粘菌・木の子との関わりについて詳しく聞くことができる絶好の機会です。
登壇者：髙田 光治（美術家）
聞き手：加藤 義夫（宝塚市立文化芸術センター館長）
日時：2023年8月 6日（日）14:00～15:30
会場：宝塚市立文化芸術センター内　ガーデンハウス（庭園内）
定員：30名（要予約）
※2023年度パートナー会員限定、当日入会可（年会費 2,000円）
申込受付開始：2023年7月1日（土）10:00より
宝塚市立文化芸術センターの公式WEBサイトからお申込みください。
https://takarazuka-arts-center.jp

「オマージュTAKARAZUKA」展
パートナーズサロン（2023年）

○アーティストトーク

髙田光治が、展示室にて自身の作品解説と参加者との対話を行います。
日時：2023年8月13日（日）14:00～15:00
会場：宝塚市立文化芸術センター　2階メインギャラリー（展示会場内）
※参加自由、事前予約等不要

「大久保英治展」
アーティストトーク（2021年）

○来場者参加型ワークショップスペース

来場者が、展示室で自由に展示作品をスケッチしたり、粘菌の様子を模写できる「ワークショップスペース」を設けます。完成したスケッチや模写は、壁面に貼り、展示に加えます。
ときには髙田光治みずからが説明を行い、一緒にスケッチをしたりすることも。日々変化する会場風景は、まるで粘菌たちが増殖するように「生きた空間」となります。

日時：会期中の開館時間中いつでも
会場：宝塚市立文化芸術センター　　2階メインギャラリー（展示会場内）
対象：子ども～おとな（全世代どなたでも）
※参加自由、事前予約等不要
お問合せ：宝塚市立文化芸術センター　Tel. 0797-62-6800

出展作品の紹介

初公開、新作！　**《大体を観る・知る》**

約160点の作品にオブジェ2点を加えた大作。木の子や粘菌の活動イメージを画面上に表現した作品が、壁面いっぱいに広がる姿は壮観です。

【髙田光治氏コメント】
採取した粘菌、木の子を映像化し、胞子が飛ぶ様子を想像して箔を使用し表現している。同時に、その付近で起こっている植物と虫との攻防、微生物の動きを視覚化した。

《大体を観る・知る》
（オブジェ）木、鉄、竹、根／193×78.5cm／2023年
（平面作品）写真、箔、木、葉、布／50×33.3cm（160点）／2023年

◆本作がモチーフにしている「舟」について
髙田光治の出身地である静岡・奥三河の山村に「舟渡し」という祭りがあります。ここでは天竜川が生活の要であり、舟を渡すことが山奥での生活にとって「光を灯す」「大切なものを運ぶ手段」という意味を持ちます。そこからイメージを拡げ、粘菌の「運ぶ」という意味合いに合わせて舟のモチーフを使用しています。

出展作品の紹介

初公開、新作！ 《土を喰う》

【髙田光治氏コメント】
倉に残された農機具から、大地と向き合った時代のアナログな力強さを表出しようと思った。
今も昔も粘菌は変わらず動き回る。

《土を喰う》
（向かって左から）
木、紙、葉、農機具／50×40×157cm／2023年
木、紙、葉、農機具／50×40×130cm／2023年
木、紙、葉、農機具／50×40×162cm／2023年

初公開、新作！ 《PHYSARUMRIGIDUMとイタチ》

イタチの骨と変形菌が食物連鎖を想像させる作品。愛好家にも人気が高く、細い柄の上に円盤状の子実体をつけるPHYSARUMRIGIDUM（イタモジホコリ）を使用しています。

【髙田光治氏コメント】
森のなかでイタチの骨を発見。森に育まれ、森に還るという自然な出来事に、今さらのように「はっ」とした。その骨の横に粘菌が移動していた。

《PHYSARUMRIGIDUMとイタチ》
骨、布、箔、粘菌／42.5×33cm／2023年

出展作品の紹介

初公開、新作！

《食を求めて》

いろいろなものをしみ込ませたキッチンペーパーの上で粘菌を活動させ、その軌跡をとじこめて作品にしています。

【髙田光治氏コメント】
粘菌（変形菌）をキッチンペーパーに移動させ、程よいと思った頃に冷やした。変形菌の動きを視覚化し、定着を試みた作品。

《食を求めて》
紙、変形菌、木、木ノ葉/64×79㎝／2020年

《ブリコラージュ》

「ブリコラージュ」とは、フランス語に由来し、ありあわせの道具と材料を寄せ集めて別の目的に役立てる手法のこと。髙田光治が集めたさまざまな素材が、粘菌とのコラボレーションによってアート作品として生まれ変わりました。

【髙田光治氏コメント】
触発された媒体（ガラス、粘菌、巣、葉、木の子）をランダムに並べ、選択し、コラージュした。

（左）《ブリコラージュ》
木、ガラス、銅、ハチの巣／42.5×32.5㎝／2020年
（右）《ブリコラージュ》
木、ガラス、銅、粘菌／42.5×32.5㎝／2020年

髙田光治プロフィール

髙田 光治（TAKADA, Mitsuji）

<プロフィール>
1953年　静岡県生まれ
1975年　大阪芸術大学芸術学部　卒業
2015年　季刊誌『kotoba コトバ』2015年春号（集英社）
「南方熊楠「知の巨人」の全貌」に寄稿

現在
大阪芸術大学芸術学部美術学科　教授
行動美術協会会員

<個展>
2020年　森からの贈りもの（美術の場をつくる）（鳥取県立博物館）
髙田光治展（アートプランニング風／大阪）
2017年・2013年・2011年・2010年・2009年・2007年　髙田光治展（ギャラリー風／大阪）
2014年　個展（space妙／京都）
2013年　個展（南方熊楠記念館／和歌山）
2006年　個展（ギャラリーBON／韓国）
2001年　個展（京阪百貨店／大阪）
1971年・1996年・1995年　髙田光治展（ギャラリー風／大阪）
1995年　個展（八番館ギャラリー／大阪）
1994年　個展（ギャラリーほりかわ／神戸）
1993年　EXHIBITION　注目の作家達（八番館画廊／大阪）
1992年　個展（グランドギャラリー／大阪）
1991年　個展（山村開発センター／静岡）
1990年　個展（みゆき画廊／東京）
1986年　個展（大阪府立現代美術センター（現・大阪府立江之子島文化芸術創造センター）／大阪）

<グループ展>
2022年　日本・表現の多様性（BBプラザ美術館／兵庫）
行動美術展（国立新美術館／東京）1980年から毎年参加
全関西総合美術展（大阪市立美術館／大阪）　1980年から毎年参加
2019年　白を愉しむ・2人展（あべのハルカスアートギャラリー／大阪）
2017年　「熊野・熊楠を愛したアーティストたち」南方熊楠記念館新オープン記念特別展
（南方熊楠記念館／和歌山）
2013年　ヨッちゃんビエンナーレ2013（大阪造形センター／大阪）
2006年　美の冒険者たち2006（アートコートギャラリー／大阪）
2004年　New Expression of Asian Art Exhibition 2004（タイシンオン美術館／台湾／東京）
2004年・2003年　Box Show 2nd（‘04-わたくし美術館／大分、‘03-ギャラリー喜多／東京）
2001年　展覧会（秋田県立美術館）
2001年・2000年　10の視角展（井上画廊／東京）
2000年　知の行方・3人展（ギャラリー風／大阪）
1999年　種子展（グランドギャラリー／大阪）、20世紀の証明（ABCギャラリー／大阪）
1996年　二つの視点‘96展（阪急百貨店／大阪）
1989年　The 7th Show window show　現代の花鳥風月part1（阿部野橋ターミナルビル／大阪）

宝塚市立文化芸術センターが誇る
ガーデン（庭）のご紹介

宝塚市立文化芸術センターには、4つのパートからなるガーデン（庭）があります。
メインガーデンから広場や屋上まで、空間の質にグラデーションを設けて整備することで、多世代が感性豊かに自然とふれあうことができ、幅広い活動を受け止める「庭」として機能しています。

＜宝塚市立文化芸術センターの4つのガーデン（庭）＞

①メインガーデン

小さな小川が流れ、四季折々の草花が楽しめる庭園。
メインガーデン内にあるガーデンハウスでは、
センター主催の講座などを開催。おむつ交換台のある
トイレを新しく設置するなど、ゆったりと過ごせる庭です。
※開園時間 10：00～17：00
※水曜休園

②みんなの広場

センターの1階部分正面、前身となる「宝塚ファミリーランド」時代から残る風景を再現した桜のある広場。おしゃべりやピクニック、読書など、思い思いの時間を楽しむことができます。隣接する手塚治虫記念館と文化芸術センターのつながりをつくり、開放的なガラス張りの施設と庭園のつながりを喚起する芝生の庭です。

③せせらぎと親水池

宝塚植物園時代から記憶に残る水辺と欄干の風景を継承し、水に親しみ動植物に触れることができる、せせらぎと親水池です。

④屋上庭園

建物の屋上にあり、昔から日本に見られる草花が植栽され、環境都市宝塚を象徴する原っぱの丘。樹々のそよぎや鳥たちの声が聞こえる眺めの良い庭です。
※10：00～18：00まで自由に散策できます。
※水曜休園

＜宝塚市立文化芸術センター 施設データ＞
所在地：〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7-64
TEL：0797-62-6800
休館日：水曜日（祝日は開館）
※年末年始（12月29日～1月3日）、その他設備点検などにより臨時休館する場合があります。
開館時間：センター・屋上庭園：10：00～18：00
メインガーデン：10：00～17：00

文化芸術センターへの入館は基本無料。展覧会や催しによっては、一部会場が有料となります。

《報道関係者お問い合わせ先》
宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂
MOBILE:090-6065-0063(馬場) 090-5667-3041(永井)
TEL:050-1807-2919　FAX:06-6231-4440　E-mail:takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センター公式WEBサイト
URL　https://takarazuka-arts-center.jp

◀アクセス
QRコード